

療養日記

爪を剪る

日向に出て爪を剪る
ホータイの中からわずかに覗いた指
そを ひとつひとつ
いとほしみつゝ爪を剪る
おほかたはくろずんで
あぶら気も艶もない
ぼろぼろの爪ではあるが
それでもわたしの血が通つてゐる
ちぢやははや
兄弟の血が通つてゐる
思へば療養幾とせ
かうして爪を剪るのさへ
夢のやうである
あの友よ
この友よ
不自由なおん身らの様を偲べば
ひとり爪を剪ることの
不思議さ ありがたさ・・・
ポキリポキリとこぼれ散る
ひざのへの
ひとひらの爪取上げて
ひがげに翳し
ひるがへし
しみじみとおろがみ見る
ああ わたしには
爪がある、爪がある、と・・・

(昭和十五年「山桜」一月号)